

令和元年度
自己点検・自己評価/学校関係者評価 報告書
(専門学校等評価基準 Ver.4.0 準拠版)

令和2年6月4日

専門学校浜松医療学院

教育目標と本年度の重点目標の評価

学校の教育理念・目標	令和元年度重点目標	重点目標・計画の達成状況	課題と解決方策
<p>【 教育理念 】</p> <p>学問を通して自己を磨き、豊かな人間性をはぐくみ、優れた感性と理性を養い、新しい時代に求められる医療人を育てる。</p> <p>【 目 標 】</p> <p>浜松医療学院(HMC)は森島学園建学の精神と教育理念に基づき、10年後の超高齢社会を見据え、地域を担う「医療・健康(スポーツ)・福祉のスペシャリスト」を育成し、地域のみなさんが質(クオリティー)の高い社会生活の営みができるようにバックアップすることを使命とする。</p>	<p>【 学生教育の改革 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生のレベルに応じた教育指導方法の検討 ・職業実践専門課程に沿った教育指導法の実施 ・退学者減少対策 (早期発見・早期対応) ・国家試験合格率向上 <p>【 学生募集充足率向上 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員主体の学生募集活動 校内企画班 ・OC企画・運営 対外活動班 ・高校訪問、ツール作成 <p>【 就労環境整備 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有給消化率向上と時間外就労減 ・職場の整理、整頓、清掃 	<p>【 学生教育の改革 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育指導方法の検討 継続課題 ・職業実践教育指導実施 継続課題 ・退学者減少対策 結果：前年比 1.8%減 (4.0%) ・国家試験合格率向上 鍼灸学科：は) 前年比-5% き) 前年比-7% 柔道整復学科：前年比+8.8% <p>【 学生募集充足率向上 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員主体の学生募集活動 結果：前年度比 3%増 <p>【 就労環境整備 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有給消化率、時間外就労課題 ・働き方改革により改善した部分もあるが、現実との歪みが潜在する。 ・職場の整理、整頓、清掃 ・年間を通じた定期清掃を実施することができた。 	<p>【 課 題 】</p> <p>令和元年度は法人本部との協議をもとに教員の多くが複数の役割を兼務する体制が敷かれ、各業務のバランスを取ることが個々の課題となり主軸職務への若干の影響がみられた。業務分散と個々の業務が多重化したことにより、各活動の管理と連携に難があった。また、働き方改革に伴う就労改善の取り組みにより、時間捻出の足並みが揃わず、定期的な進捗状況の把握と全体共有の機会を得る回数が減少した。</p> <p>【 解決方法 】</p> <p>年度末に職員全体会議を実施して年間の活動を振り返ることにより、課題点の詳細を把握した。令和元年度の取り組み結果を法人本部へ報告するとともに改善策の協議を進め、あらためて組織的な学校運営に向けた体制を構築して取り組むこととした。また学院長を含め職員の入退職があるが、新学院長のもとでのあらたな計画立案と着実な実行が解決方策となる。</p>

※自己点検・自己評価報告書記載に関する事項

職員 28 名を対象に専門学校等評価基準 Ver.4.0 における全点検項目についてアンケート調査を実施した。その結果に基づいて報告書を作成する。アンケート調査は 4 段階 (適切・4、ほぼ適切・3、やや不適切・2、不適切・1) で評価し、適切評価比率 (全回答に対する 4・適切、3・ほぼ適切な比率) が 80%以下の結果であった項目を中心に報告をまとめる。

＜ 大項目基準 1 教育理念・目的・育成人材像 ＞

◆点検中項目 1 理念・目的・育成人材像

小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	本校ホームページの「理念・沿革」のページに記載し、学内外への周知を促している。職員室・会議室内等にも理念を掲示することで職員が常に意識できるようにしている。	96.5%	
1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	学校評価専門部会での意見を参考に、教育・指導内容の充実に向けた協議を、教育課程編成専門部会および各学科レベルで実施している。	92.8%	
1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	教職員に対して理念の浸透を図り、臨床現場で活かせる現場実習や附帯教育・特別講座の充実を図っている。	85.7%	
1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	超高齢社会を見据え、健康・スポーツ・福祉分野で活躍できる人材育成を目標としている。	85.7%	

基準 1 大項目総括	学校関係者評価
大項目基準 1 については、例年高い適正評価比率残している。今後も理念に基づく医療人材の育成に継続して取り組む。	例年通りの評価結果を継続していることは望ましいことである。今後も理念を教育活動の主軸に取り組んで行くことを期待する。

< 大項目基準 2 学校運営 >

◆点検中項目 2 運営方針

小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	学院長を中心に理念である「人間性・感性・理性」を養うための学生指導を日々（あいさつ運動、全体集会等）実施している。	75.0%	運営方針に分かりやすく理念が盛り込まれたものになるようにする。

◆点検中項目 3 事業計画

小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	学校運営と PDCA サイクルの運用が上手く連動できていない面がみられる。	71.5%	計画管理と綿密な活動の実行により、途中での計画倒れの防止に努める。

◆点検中項目 4 運営組織

小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	法人本部と学校間の機能的連携に課題がある。	71.4%	本部・学校間における連携強化と円滑な運営が課題となる。
小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	年度途中での人事変更があり、再構築に時間を要している。	57.1%	人事変更による変化への対応。

◆点検中項目 5 人事・給与制度

小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	人事制度は管理規則に記載されているが、制度整備における根幹が不明確との意見がある。	71.4%	本部と学校による制度整備に関する協議を行う。

◆点検中項目 6 意思決定システム

小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
2-6-1 意思決定システムを整備しているか	学校の意思決定は規程集により学院長が執り行うものとなっている。	75.0%	定期的に本部と学校が協議する場を設ける。

◆点検中項目 7 情報システム

小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	組織内に電算室管理室長を配置し、学籍・成績等の情報は一元管理されている。デスクネットを最大限活用できるよう取り組んでいる。	85.7%	

基準 2 大項目総括	学校関係者評価
昨年度と同様に「学校運営」項目の適切評価比率が低下している。適正評価比率の上昇には、やや不適切・不適切に含まれる意見を拾いあげて、学校内のみでなく本部と共有して解決することが求められる。	法人本部と教育現場の間で定期的な意見交換を行うことにより、評価の適正率が向上することが期待できる。

< 大項目基準3 教育活動 >

◆点検中項目8 目標の設定

小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	教育課程編成部会を設置し、外部の意見も参考にしながら改善策を検討している。	92.9%	
小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	修業年限の中で段階的に到達目標を達成できる仕組み作りが求められる。	82.1%	

◆点検中項目9 教育方法・評価等

小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	教育課程編成委員会および教務委員会で対応している。	96.4%	
小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	学校関係者評価委員に業界等からの選任を実施。外部の意見反映につとめている。	82.1%	

小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	新入生の入学前授業から各学年次のキャリアデザイン講座、キャリアガイダンス、就職説明会へと3年を通じた取り組みをしている。	92.9%	
小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
3-9-4 授業評価を実施しているか	各定期にて授業評価アンケートを実施している。姉妹校である富士リハビリテーションとの授業観察交流も継続している。	99.2%	

◆点検中項目 10 成績評価・単位評価等

小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	成績評価・単位認定基準は学生便覧に試験規程として記載している。各定期における学力形成目標達成のため、補習ならびに学力考査試験を実施した。	96.5%	
小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	学生の学術発表や各種大会等への参加結果は、校内に掲示物や表彰物展示などで周知している。(令和元年度例：日赤救急法競技会、学術大会ポスター発表掲示等)	85.7%	

◆点検中項目 11 資格・免許の取得支持体制

小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	本校の教育課程最終目的は国家資格・認定資格の取得であり、明確化されている。	100%	
小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	各学年における到達目標を達成し、最終学年（3年生）では7回の模擬試験と各成績結果による学習指導を実施している。模擬試験成績による補習活動を導入している。	96.5%	

◆点検中項目 12 教員・教員組織

小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	各学科は法定人数を確保し、すべての教員および講師は資格・要件を備えている。新採用等においては管轄機関への資格要件確認を欠かさず行っている。	85.7%	
小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	業務過多により研修の機会が減少している。研修予算の確保に課題が残る。	75%	教員の資質向上への取組活発化と研修予算の確保が課題となる。

小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	教員は各学科に配属されて学科長を中心に組織的に活動している。	71.4%	適正比率が連続で低下しているため、早期に学内で協議する。

基準 3 大項目総括	学校関係者評価
組織変更により体制の変化と業務の兼務が多くなったこともあり、教員の資質向上に向けた取り組みは昨年度よりもさらに適正比率が低下している。組織体制の整備は次年度の必須項目に挙げられる。	教育活動においては国家試験合格のみならず、職業人としての技能と技術を向上させる取り組みも充実させたい。そのためにも教員資質向上と教育力向上の取り組みについてはさらに充実化を図ることを期待したい。

< 大項目基準 4 学修成果 >

◆点検中項目 13 就職率

小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
4-13-1 就職率の向上が図られているか	進学希望者以外の卒業生就職率は概ね 100%を達成している。キャリア教育行事である就職説明会は全学年参加型であり、就職に関する意識づけを全学年対象に実施している。	96.4%	

◆点検中項目 14 資格・免許の取得率

小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか	最終学年では総合試験結果に準じた学力対策を実施している。各学科単位で早期に補習活動を実施している。	79.2%	初学年より段階的な学習指導と学生の学習習慣を構築する教育指導が必要。

◆点検中項目 15 卒業生の社会的評価

小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	就職担当・広報担当による本校卒業生の現状把握につとめた。	78.5%	例年と比較して同窓会活動の回数が増えたが、関わる教員の負担も増えたことは課題として残る。

基準 4 大項目総括	学校関係者評価
資格取得率・就職率・卒業生の活動を職業教育機関の成果として捉えて教育活動の充実に努める必要がある。	多角的な面での成果から常に教育活動を見直し、適宜内容を変化させながら更なる充実化が図られることを期待する。

< 大項目基準5 学生支援 >

◆点検中項目 16 就職等進路

小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	専任教員を就職担当として設置している。昨年から学生自由参加型の学内事業所説明会を複数回開催している。	100%	

◆点検中項目 17 中途退学への対応

小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
5-17-1 退学率の低減が図られているか	退学の原因となる主要因（学業成績不振）への対策として、定期試験結果に連動する補習活動を実施している。	92.9%	

◆点検中項目 18 学生相談

小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	各学科担任制を敷き、年度始めの面談から諸問題に関する学生相談を随時行いながら対応している。	95.4%	相談件数から学生の現状と教務の対応力を分析把握することも必要である。
小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	※留学生の受け入れは現状行っていない。	評価なし	

◆点検中項目 19 学生生活

小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	新たに法制化された「修学支援法」に対応した。	96.4%	
小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	毎年度始めに学生健康診断を実施している。	100%	
小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	学生寮の設置はないが、遠方からの通学や学校近隣でアパート等を借りる場合の定額支援や不動産業者への紹介等の支援を実施している。	67.8%	学生寮の設置については、法人本部との協議を要する。
小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	本校は学友会を中心に課外活動を支援している。	82.1%	職務を兼務していることが多く、支援に費やす時間の捻出が教員の負担となっている。

◆点検中項目 20 保護者との連携

小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	令和元年 6 月に保護者会を開催した。在校生による発表や学年別分科会を実施。保護者からの質問受付や意見交換なども行った。	97.4%	

◆点検中項目 21 卒業生・社会人

小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	令和元年度は同窓会主催の講演会を複数回開催できた。	96.5%	
小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	昨年に引き続き、柔整学科による臨床実習指導者講習会を開催した。	86.7%	外部臨床実習を活用した産学連携体制作りに取り組む。
小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	次年度から全日制となるが、引き続き社会人の学びなおし支援に向けた取り組みは継続する。	85.7%	

基準 5 大項目総括	学校関係者評価
<p>学生の変化や保護者ニーズへの対応が多様化するなど、学生支援は教員のみならず、事務局・附属臨床施設職員も含めた学校職員全体で行わなければならない。</p>	<p>学生を中心に据えた支援策の構築は重要と考える。さらに大きな視点に立ち、保護者・卒業生・地域・業団をも巻き込んだ職業教育体制を考えることも視野に入れる必要がある。</p>

< 大項目基準6 教育環境 >

◆点検中項目 22 施設・設備等

小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
<p>6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか</p>	<p>学生の自主学習スペース確保が度々問題になる。</p>	<p>85.7%</p>	

◆点検中項目 23 学外実習・インターンシップ等

小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
<p>6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか</p>	<p>新カリキュラムにより外部実習が可能となり、徐々に実施体制を整えている。海外研修は現状でできていない。</p>	<p>64.3%</p>	<p>担当職員を配置するなどが必要であるが、学内全体での実施体制の構築も必要となる。</p>

◆点検中項目 24 防災・安全管理

小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	防災マニュアル。地震防災計画を備えている。防災訓練は9月に実施、飲料水・食糧は備蓄を計画的に実施した。	100%	
小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	学生の安全管理対策として、実技授業は複数教員で行うなどの管理体制を敷いている。また保険による学生24時間サポートを取り入れて学生サポートに取り組んでいる。	100%	

基準 6 大項目総括	学校関係者評価
開校から19年が経過しており、教育施設・設備の改修が必要な場所も出てきている。予算面も含めて計画的に取り組む必要がある。	教育施設・設備の改修は優先順位を考えながら計画的に行うことが望まれる。

< 基準7 学生の募集と受入れ >

◆点検中項目 25 学生募集と受入れ

小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	高校教員対象の学校説明会を実施して、本校の教育活動に関する情報提供を行っている。また定期的に各高校進路課を訪問して本校に入学した学生の近況報告にもつとめている。	100%	
小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
7-25-2 学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか	教員が学生募集活動全般に渡り兼務体制で行ったが、教育と募集を完全に両立させることは非常に困難であった。	85.7%	募集組織体制と募集戦略の見直しに取り組む。

◆点検中項目 26 入学選考

小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	本校の入学選考基準は、募集要項に明確に記載されている。	72.8%	資格取得を中心に見据えた選考基準を考える。
小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	高校新卒入学内定者において、出願時調査書をもとに入学前三者面談を実施している。本校の教育活動に関する考え方とともに、3年間保護者からも最大限の協力を頂けるようつとめている。	96.4%	

◆点検中項目 27 学納金

小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	学納金に関する変更はない。学納金に関する記載は募集要項・学生便覧・ホームページを通じて周知につとめている。	89.3%	
小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	入学辞退者の納付金返還は入試要項に記載の通りである。	96.4%	

基準 7 大項目総括	学校関係者評価
<p>高校生の大学進学志向は一層高まっている。本校の認知度向上だけでなく、取得資格の魅力を再考する必要がある。</p>	<p>教育機関の学生募集状況は職業領域の未来を支える人材確保の点において重要であると考えます。職能団体としても職業の魅力や可能性を社会に向けて積極的に発信することにより教育活動に協力したい。</p>

< 大項目基準8 財務 >

◆点検中項目 28 財務基盤

小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	令和元年度も学生募集に苦戦を強いられた。	57.2%	本部・理事会による財務基盤安定化対策の強化。
小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
8-28-2 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	法人本部および理事会にて実施されている。	71.4%	法人本部と連携した財務分析。

◆点検中項目 29 予算・収支計画

小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	本校での予算は理事会の決定に基づいて作成されている。	78.6%	教育目標に軸を置いた計画の策定と、目標実現に必要な教育に要する予算使用と管理が求められる。
小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	本校での計画執行管理は基本的に学園本部により実行されている。段階的に事務局でも管理状況が把握できるようになっている。	75.0%	学園本部と学校の双方が協議を行いながら予算計画を行い綿密に管理して行く。

◆点検中項目 30 監査

小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	会計監査は監事が適切に実行している。	89.3%	

◆点検中項目 31 財務情報の公開

小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
8-31-1 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	財務情報をホームページ上で公開している。規定の整備を実行中。	92.9%	

基準 8 大項目総括	学校関係者評価
定員充足率の低下による財務状況の変化に対して、学校も対応する必要がある。	財務基盤の安定については法人本部と学校との協力体制を強化しながらこれからも尽力すべきであるとする。

< 基準9 法令等の遵守 >

◆点検中項目 32 関係法令・設置基準等の遵守

小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	本校は学校教育法・専修学校設置基準・各種養成施設指定規則・関係法令を遵守し、適切に運営されている。	96.5%	

◆点検中項目 33 個人情報保護

小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	電算管理室長を中心に個人情報保護対策に努めている。	96.4%	

◆点検中項目 34 学校評価

小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	自己評価体制の整備を試みている。適正評価比率は高いが、現時点では一部の役職への負担が大きく、教務部職員を中心とする委員会の本格稼働に向けた取り組みが望まれる。	96.4%	
小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
9-34-2 自己評価結果を公表しているか	本校では自己点検・自己評価報告書を学校ホームページ上で公開している。	100%	

小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	評議員（卒業生・各業団関係者・保護者）による学校評価専門部会を開催し、学校関係者評価を行っている。	100%	
小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	本校では自己点検・自己評価報告書とともに学校関係者評価報告書をホームページ上で公開している。	92.9%	

◆点検中項目 35 教育情報の公開

小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	教育活動における取り組みや情報は、本校ホームページ上や各種ネットワークサービスを通じて公開し、周知につとめている。	96.4%	

基準 9 大項目総括	学校関係者評価
学校全体を通して法令等遵守に努めている。また職業実践専門課程の認定校としての情報開示も行っている。	引き続き法令を遵守しながらの学校運営の実施を期待する。専門部会としても学校改善に向けた評価と提案を継続したい。

< 大項目基準10 社会貢献・地域貢献 >

◆点検中項目 36 社会貢献・地域貢献

小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	地域社会貢献活動については、地元の中学校から高校のキャリア教育活動への協力を始まり、地域行事に関する本校施設および駐車場貸出などを行っている。	95.4%	
小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	今年度については積極的な取り組みに結び付けることができなかった。伝統医療を国際交流につなげていく手段を再考する必要がある。	57.2%	

◆点検中項目 37 ボランティア活動

小項目	現状・取組等	適切評価比率	課題
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	学生ボランティア活動として、グループ施設（介護老人保健施設：八幡の森）における入所者対象イベント「夏祭り」への参加を実行している。その他、日赤災害時訓練などへも学生ボランティア参加がある。	78.6%	教職員を含めたボランティア参加意識の向上。学生へのボランティア奨励と活動支援。

基準 10 大項目総括	学校関係者評価
<p>学生へのボランティア奨励と活動支援だけでなく、教職員を含めたボランティア参加意識の向上が必要である。</p>	<p>業界・団体も「公益性」をもって地域社会に貢献することを目指した活動に注力している。学校教育の段階から「公益」を意識した学生への指導を期待したい。</p>

最終更新日付	令和2年6月4日	記載責任者	鈴木 康仁
---------------	----------	--------------	-------